

令和元年度 インターネット・ゲーム依存の予防・対応等に関する研修会

7月25日、26日に、独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターにて標記の研修会が開催され、香川県教育委員会から3名が受講しました

平成29年に香川県教育委員会が実施した「スマートフォン等の使用に関する調査」では、県内中学生の3.4パーセント、高校生の2.9パーセントはネット依存傾向にあると考えられます。また厚生労働省が平成29年度に行った調査からは、中学生の12.4パーセント、高校生の16.0パーセントにネット依存の傾向があり、5年間でその割合がほぼ倍増していることが分かります。

子どもたちのネット依存を予防するために、私たち大人はどのように対応していけばよいのでしょうか。本稿では、独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターでの研修内容から、特に子どものネット依存を深めないための対応について紹介します。

ネット依存の傾向にある子どもへの対応



①大人がネットについて知る

- *子どもと話し合うために、用語や仕組み、オンラインゲームの種類など、ネットについての基本的な知識を得ておく。
- *ネットを知っている大人に対しては、子どもが「話せば分かってくれるかも」と感じ、相談しやすくなる。

②ルールづくりは子どもと一緒に

- *大人が一方的にルールを提示するのではなく、子どもの意向を尊重し、取り入れる。
- *守ることができたら褒める。できなければ再度話し合う。このやりとりの積み重ねが大切である。

③リアル生活の充実を

- *「他にすることがないから」「ネット以上に面白いものはない」という理由でネットに没入してしまう子どももいる。
- *「面白いこと」「楽しいこと」を現実生活の中に見つけることができるように、様々な体験をさせる。

④I & You メッセージを

- *「あなたは〇〇だ」という伝え方は、子どもを責める口調になってしまう。「私はこう思う」「私は心配している」など、私から始まるメッセージで声かけをする。
- *「あなたはどう思う？」と、子どもの気持ちを聴くことも忘れない。

ネット依存の問題は、現実には生きている子ども自身の問題が投影されて起こります。最も大切なことは、子どもの話をしっかり聴き、本人にとってネットの意味は何かを考えながら対応していくことだと、この研修によって学ばせていただきました。